

第20回「水をたいせつに」 絵画コンクール審査会 審査員講評

【小学生の部】

小学生の部の最優秀作品は、100周年を誕生日ケーキでお祝いをしたい、という子どもらしいストレートな発想がほほえましい。「水」について、家庭や学校、身近な場面を想像しながら、表現豊かにのびのびと描かれており、素晴らしい作品である。

学校における水の学習によって、水道のしくみをしっかりと理解していることが伝わった。「水」という身近なものがテーマで、普段から、多くの児童が、自宅や学校で節水意識を持ちながら行動していることによって、想像しやすく、楽しみながら描けたのではないかと考える。

【中学生の部】

最優秀作品は、水の安全性をイメージするような、明度を高くした効果的な配色計画に基づいた丁寧な彩色で、画面全体に爽やかさを感じることができる。コピーライトも工夫されており効果的である。

思いついたものをそのまま描くのではなく、まずは、作品のストーリーを考えることが大切である。また、キャッチコピーについても、何を一番伝えたいのかを考えて文言を深く吟味し描くと、質の高い作品になると考える。

【作品テーマの部】

小学生の部の最優秀作品は、動物、植物、人々の生活など、いろんな所で「水」が役に立っていることが一見してわかりやすく表現された作品で、中学生の部の最優秀作品は、一瞬何の絵かと思入ったり考えさせられたりもするが、そのぶん印象に残りやすく、訴求力と工夫が感じられる作品だった。

今年度は、福岡市の水道は100周年！をテーマとして作品を募集し、その節目を記念するなどの数多くの作品を応募いただいた。しっかりと、テーマやキーワードに沿って描いており、また、キャッチコピーがなくても、趣旨が伝わる素晴らしい作品が多くみられ感心した。これまでの水に関する学習が十分に活きていると考える。